



The service club to the YMCA

THE Y'S MEN'S CLUB OF TAKARAZUKA

宝塚ワイズメンズクラブ
〒662-0977 西宮市神楽町5-23
西宮YMCA内
☎(0798)35-5987

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ 2014年10月会報 第313号

主 題 ・ 標 語

- 国際会長(I P) Isaac Palathinkal (インド)
主 題: "Theme:Talk Less, Do More" 「言葉より行動を」
標 語: "Do it Now"
「今すぐやろう!」
- アジア地域会長(AP) 岡野 泰和 (日本)
主 題: "Start Future Now" 「未来を始めよう、今すぐに」
標 語: "One Asia, One World" 「ひとつのアジア、世界はひとつ」
- 西日本区理事(RD) 松本 武彦 (大阪西)
主 題: 「響き合い、ともに歩む」
"To walk together, echoing each other"
標 語: 「こころ豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでゆく」
- 六甲部長 多胡 葉子(宝塚)
主 題: 「わたしとあなたのY'S ダムをYMCA と共に」
《ユース・交流・地域》
- 宝塚クラブ会長 杉谷 和代
主 題: 「Shareする喜びを感じよう、その輪を広げよう!」
"Let's feel the joy of sharing. Widen the circle of it "

今月のテーマ: BF(Brotherhood Fund)

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

(マタイ福音書7章13~14節)

2014年10月第一例会

日 時: 2014年10月8日(水)18:30

場 所: 宝塚ホテル ゴールドの間

会 費: 会員 3,100円、会員外 3,500円

ドライバー 吉田 明

開会点鐘 水谷 恭子

ワイズソング 杉谷和代会長

聖 書 全 員

祈 禱 沢田 郁

ゲスト・ビジター紹介 今田 稔

会長報告、 杉谷和代会長

YMCA 報告 三島浩司連絡主事代行

会 食

ゲストスピーチ

フリーアナウンサー 西澤 暉氏

「阪神戦実況32年のあゆみ」

誕生日のお祝い

閉会点鐘 杉谷和代会長

2014/15 役 員	会 長 杉谷和代 直前会長 石田由美子 副会長 福田宏子、石田由美子 書記 若林成幸 会 計 吉田 明、堀江裕一 会計監査 今田 稔 六甲部部長 多胡葉子 メネット連絡 今田和子 連絡主事 谷川 尚
事 業 委員長	YMCAサービス・ユース 福田宏子 地域奉仕・環境 福田宏子 EMC 石田由美子 交 流 石田由美子 ファンド 三品ミチ子 広 報(ブリテン) 長尾 亘、(HP) 長尾 亘
特別事業 委員長	NGO 鯖尻佳子 じゃがいも 福田 肇 バザー 加藤光信 市民クリスマス 若林成幸
お誕生日 おめでとう!	今田 稔 (10月14日) 井上みえ (10月23日)
9 月 実 績	例会出席者数 27名 在籍会員数 23名 出席会員数 19名 出席率 82.6% メイクアップ(内数) 4名 メネット 2名 コメント・マゴメント0名、ゲスト・ビジター6名
	BFポイント 9月 4,500円 累 計 8,700円 にこにこBOX 9月 3,000円 累 計 28,200円 物品販売累計 6,000円

9月第1例会報告

9月例会は10日(水)定刻午後6時30分より宝塚ホテル・ゴールドの間で杉谷会長IBCであるアメリカ、ヤキマワイズメンズクラブ訪問の為、石田副会長の

点鐘で始まりました。今回は、坂田メンのご紹介により関西学院大学名誉教授



小山 泰氏を招き、

「一科学者として、一クリスチャンとして学んだこと」を題し、専門的な業績については触れずに、氏の長い研究生生活を通して積み上げてこられた師弟との心の交流、真摯に学問に向かう科学者の生き様をお聞かせ頂いた。幾つかのトピックスの中でも阪神大震災のくだりは、同種の体験を持つものにとっても印象的であった。因みに、日課としている車での散策の途上、あの阪神淡路大震災の激震に遭遇。瞬時に、研究室に居残って徹夜で課題に取り組む学生の身を案じ、研究室に駆け込み、薬品の化学反応による爆発を予知しつつ、避難指示と消防署への的確な通報など、なすべきことを順序立てて判断し行動に移された模様は、参会者の同種体験に比べて如何にも科学者らしい。

安全を見きわめての直後、車に戻り持参のサンドイッチをほおぼりながら思索を始めた、とあり、会場には笑いが。また、出席者から、クリスチャンとして信仰と科学に矛盾はないか? STAP 細胞問題への見解? を問われたが、これらにも丁寧な回答をいただき、氏のお人柄を彷彿とさせるものであった。9月中旬に杉谷会長が帰国され、10月の例会点鐘を二か月ぶりに見れます。長尾 亘

=第3回シアトル訪問記=

2か月ぶりに帰国しこのレポートは日本から最後のレポートとなる。シアトルで書いているのとだいぶ気分が違う。というのは、こちらは何と蒸し暑いことかと、あちらの気候がとても恋しい! 最終レポートはY's サービスとYMCA 訪問について書いてみましょう。

Y Service は3クラブ訪問(内一つは合同)。Y Service Seattle(会長 Lee A Woodard)と Downtown Y Service(会長 Sharon Meadows)である。最初に訪問したのは神戸ポートの山崎さんからご紹介いただいた二つのクラブ。シアトルに到着後Leeとは何度もメールで連絡し合ってようやく特別ミーティングを私のために設定された。その週の土曜日に私が Yakima を訪問することを伝えていたので前日ではなくて2日前の木曜日夜に決められたあたりはLeeの細やかな心遣いと思って感謝した。Leeのクラブからは5名、Sharonのクラブからは1名。いずれのクラブも



少人数で、特に Sharon のクラブは4名で大変厳しい状況らしい。特別ミーティングなので参加者はわずかだったが大変温かく迎えていただいた。今まではYMCAで例会をしていたそうだが最近はレストランで行って多少ともPRを兼ねることができればとの思いだそう。その日も同じレストランで約2時間。インド国際大会の前に国際会長が訪問された時と同じレストランとのこと。Dinner をご馳走になりながらのミーティング。しかし Minutes も読み上げられ、会計報告もあり、おまけにその日は副会長の就任式があった。新副会長は Yakima

の Wayne の義息子の Kevin であったので驚いた。彼にはシアトル到着後間もなく彼の自宅ですでに紹介されていた。このことは Wayne も知らなくて、Yakima でそのことを話すと彼は驚きの表情を見せていたが、お嬢さんの Heidi

の夫がそのように Y Service に拘わることは嬉しかったようであり、私自



身も彼の若さで新しいアイデアを取り入れて Lee のクラブが活性化することは素晴らしいと思うと伝えた。宝塚クラブの活動をいろいろ話し、同時に日本の東西 2 地区の話などを分布図を示して話した。USA もかつては活発に活動をしていたのに今では若い人の参加が難しくて元気がないように感じた。このミーティングの始まる前に、会員の一人、Kwame がピックアップしてくれ、その上私の住む家の近くのフィールドスタジアムに案内してくれた。そこは彼らのクラブにとって思い出のフィールドであると話してくれた。彼らのクラブのシニア会員で 100 歳の Fordie Ross が今年の春この世を去った。彼はこのスタジアムで陸上競技試合を何度もしたという思い出話を聞かせてもらって胸の詰まる思いだった。クラブは少人数でも会員同士の繋がりを感じた。やはりそれぞれが理解し合い、尊重し合い、活動を続けているような姿を目のあたりにし、国際的に日米がこのような交流ができることに光栄と感謝の気持ちを抱いた。彼らと Y の話をシェアし楽しいひと時を過ごし、お土産まで頂戴し

(私は See's Candy Chocolate をお土産にした) —このお土産は第二例会に持参—また Kwame に家まで送ってもらって来年の再会を約束して別れた。2 日後は、バスで約 3 時間の Yakima を訪問。こちらは宝塚と IBC 関係で

あるのと、度々ブリテンで周知の間柄なので、懐かしい人に会える思いで Yakima に着いた。バス停では大柄の会長 John の出迎えを受けた。早速 Yakima YMCA のツアーをアレンジしてくださり、約 1 時間かけてスタッフの親切で丁寧なツアーを楽しんだ。土地柄であろうか施設は整い、地域密着型で子供、若者、大人、家族対象の豊富なプログラムに驚いた。その後は John のお宅に移動し、Wayne ご夫妻の到着を待った。モーターホームで到着し、これも土地柄広い庭の一部に一軒家程の大きな車を駐車し、その夜は Wayne 達はそこで宿泊。5 人で夕食が始まると、話し上手の Wayne は宝塚クラブとの思い出の写真の数々を見せて懐かしそうに話してくれた。昔、長尾ご夫妻が Yakima を訪問した時の写真など、コピーを持参してく

れた。リンゴ園の経営者である彼は搾りたてのアップルサイダーをお土産に持参。4 人のうち、3 名が教育者であり Y's メンバーなので話は Y's のことや海外での英語



教育の経験談、キリスト教のこと、グローバルに展開しそのスピードの速さに私はついて行くのは大変。翌朝のプランを確認し、その夜のお開きは相当遅い時間だった。翌日は、ゴルフコースのレストランでランチをご馳走になり、結局、休暇中の会員の方に会う機会はなかったものの、仲の良い Two couples に会うことができ、Y's の活動についての具体的な話はほとんどなかったが、私の訪問を歓迎してくださり、温かな一泊二日の Yakima 滞在を満喫し、ここでも来年の再会を約束し、次回はもっと長く滞在するように言われ、この点は実現できる

かどうかは不確かだが、Yakima にファミリーが誕生したような気持ちで、バスに乗ってシアトルに向かった。今、こうしてお会いした Y' s の方々のことを書いてみると、こんなに親しく懐かしく思う気持ちは、Y' s という共通の組織の中で活動するもの同士だから抱ける親密感だと思い、とても素晴らしい出会いと、交流ができたことに感謝の気持ちで一杯である。皆さまありがとうございました！

杉谷会長

9月第2例会報告

第2例会報告

9月17日(水) 18:30 から宝塚市西公民館会議室にて、石田・福田ひ・多胡・今田メット・堀江・吉田・長尾・福田肇・三島(谷川主事代行)・若林が出席して第2例会を行った。帰国予定が1日遅れた杉谷会長から送られたレジメに基づいて、次の議事を進めた。

1. 例会運営・ゲスト等の確認

10月 プロ野球アナウンサー 西澤 暉氏
「阪神タイガース四方山話」

プロジェクター等の要否確認・氏の近著
販売・六甲おろし等グッズ準備。
友好クラブへPR(交流委員長)

11月 桑田ワイズ活動報告(テーマを予め確認) 杉谷会長のシアトルYMCA及び
ヤキマクラブ訪問報告

12月 第1部、礼拝 奨励は嶺重俣氏に依頼
第2部、ゴスペル・ミニコンサート、
第3部、祝会

その他 メネット事業主任の活動テーマ「希
少難病」についての学習会を2~3例
月会で行う前提で準備。(今田メット)

2. 宝塚市・1万人のラインダンス

11月1日(土)武庫川河川敷で行われる「〜
ギネス世界記録〜に挑戦 Takarazuka
1万人のラインダンス」にクラブから有志が

参加する。10名参加で登録する。

3. 各地の部会への参加

9月27日(土)西中国部会(岩国市で開催)
に7名が参加。岩国クラブと交流を行う。

9月28日(日)九州部会(天草で開催)4名
が参加。鹿児島クラブとの交流を行う。
以上の交流を通じ、宝塚〜岩国〜鹿児島
クラブとのトライアングル、DBC締結を
目指す。

4. 千葉クラブからのDBC希望について

千葉クラブからDBC締結意向を受けて
いることに対し、釣書を交換し検討を
促進することとした。

5. 神戸Yチャリティラン(福田宏子)

11月3日開催、福田の神戸Y準備会
の報告に続き、出店、ラン参加者、
配車等について協議した。三島から
協賛金の要請があった。

6. ジャガイモ委員会報告(福田肇)

ジャガイモ入荷(10月4日)に先立ち、
各人からの販売見込を集約し、現在
250箱強に。昨年度実績を参考に未
確認の大口顧客への販促が要請され
た。配送は、原則、申込受付者が
行うが、運搬分担の協力が欠かせ
ない。

7. 対外献金の支出報告(吉田)

対外献金についての次の執行を了
承した。
はんしん自立の家 1万円
(9月例会で執行)

神戸Yチャリティーラン 5万円

全国YMCAリーダー研修会 2万円

メネット事業支援金は別途検討

8. ブリテン編集(長尾メン)

ブリテン10月号の編集・寄稿分担・
日程の確認があった。各地の部会
への参加が多く、その訪問記が
楽しみである。

若林成幸

～～ゲスト・プロフィール～～

※10月例会、(10月8日)

西澤 暉氏 関学出身の最高齢(80才)の現役アナウンサー。プロ野球中継『サンテレビボックス席』で、32年間にわたって阪神タイガースの公式戦を中心に500以上の試合の実況を担当。アメリカンフットボール中継・関連番組にも、武田建(関西学院大学ファイターズの元監督)とのコンビを中心に、実況担当として長らく活躍した。最近の著作「阪神戦・実況32年。甲子園の放送席から見たタイガースの真実」

六甲部部会を終えて
(Rokko District Meeting)
六甲部部长 多胡 葉子

第13回六甲部部会が9月6日(土)関西学院会館で開催された。

部会は親睦と研鑽を目的とすると部則に書かれている。

総勢140人以上、六甲部各クラブからと西日本区各部からと同じくらいのメンバーの出席のもと開催された。

第一部は部長による開会点鐘、アイダの曲に

合わせて六甲部部旗を先頭に8クラブの会長によるバナー入場、ワイズソング斉唱、そして



山崎往夫牧師による聖書朗読と祈祷。賛美歌を歌っている間に袋が回り、東日本大震災、広島土砂災害のための献金がささげられた。そして西日本区松本武彦理事と神戸YMCA水野雄二総主事のお二人から来賓の挨拶があり式

典を終えた。

第二部は研鑽をする場として関西学院大学名誉教授の武田建先生から「心の育ち方、育て方」と題して講演をいただいた。

先生は若いときから神戸YMCAに関われ、多くのリーダーを育てYMCAのもっとも良き理解者のお一人です。先生がその生涯をとおして深く関わられているアメリカンフットボール部のメンバーを育てておられる体験からのお話はYMCAの活動として常に心がけている弱い立場の人々への人育ての神髄が伝わるものであった。また、その話術は漫談の中に参加したメンバー全員が和やかな雰囲気になって心に響くひと時を共有することが出来すばらしい研鑽の場であった。

第三部は会場が隣の間に移り、石田由美子ワイズの軽妙な司会のもと、関西学院大学の学生フラチーム(マハロ)の7人のあでやかな衣装は勿論のこと素晴らしい笑顔としなやかなフラに一同圧倒され、釘付け状態。アンコールまで出る盛況ぶりのスタート。

武田寿子ワイズの食前の感謝に始まり、岡野アジア会長の乾杯の挨拶。

そして真ん中に出されたブッフエスタイルの食事にあつまり、賑やかなワイズならではの交流のひと時はあっという間に時間が過ぎた。それにしてもワイズのメンバーの若いも若きもその食欲にはさすが元気に各方面で活躍しているエネルギーのもとになっているのだと感心した。

食事が一段落した頃から来年度のアジア大会、西日本区大会、各部、活動などのアピールが時間制限を受けてなされ、3分を過ぎるとペナルティをとられて1,000円のペナルティ料が献金された。

すべてのアピールタイムが順調に過ぎ、部長から部会への参加の感謝とお礼をのべ、閉会点鐘で丁度予定の時間2時に閉会となった。解散後は日本一素晴らし校舎と誇る校舎をある方々にとっては母校の郷愁を覚え、ある方々にとっ

てはそのすばらしさに感動をしながら校庭の散策を終えて帰路につかれたことと思う。ホストクラブの宝塚の皆さん本当にお疲れ様でした。感謝！

西日本区部会訪問記

[中部部会]

2014年8月31日(日)、9部のトップを切って大西博昭部長のホーム、四日市都ホテルで開催されました。多胡葉子部長と近鉄難波駅から名古屋行特急に乗ると、何と偶然にもお隣の席には清水汎中西部部長が来られ、2時間の乗車

時間は短く感じられました。私にとっては二度目の四日市です。前回は2年前、交流事業主任になっ



て直ぐに四日市クラブから6年ぶりにSTEP(ユース短期交流事業)を出すと言う大きな事業があり、大西部長のコメット、慎太郎君壮行会に出席のためでした。

ケニヤ・ナイロビのYMCAやワイズメンと交流しながら発展と貧困問題を自分の目で見て学びたい、と言う熱い思いに、当時の成瀬晃三理事始め、出席者は大きなエールを送りました。そんな事を思い出しながら会場に着くと西日本区各地から集まったメン、メネット140名がホワイエに溢れ、盛況ぶりが伺えました。

プログラムの中、大変心を揺さぶられたのは、自衛隊三重県地方本部四日市地域事務所所長・三等陸佐・小田浩次氏の「東日本大震災に学ぶ」とのテーマで話された講演でした。

2011年3月12日、震災の翌日に被災地入りをされ、生々しい現場を若い隊員達と救出活動を始められ、数々の辛い経験に涙されたお話は本当に胸がしめつけられました。

若い隊員が、恐らく彼の母親年代の女性を泥まみれの状態で死体となって見つけた時、大切なペットボトルの水で顔や髪をきれいに洗ってあげているのを見て、「水を大切にしろ」とは言えなかった、と話されました。翌日から全員、ペットボトルを2本持って活動したそうです。この様な組織として守るべき規則と、人間として規則を忘れて思わず手を出してしまう瞬間の間で泣きながら作業に励む若い隊員を叱ることは出来なかった、とも言われました。現場を踏まれた人だからこそその説得力で涙が溢れました。

時間の経過と共に、多方面の方々から違った立場でのお話を聞き続けて行く事が大切だ、と強く感じた素晴らしい講演会でした。

石田由美子

[阪和部部会]

お天気のはっきりしない今年の夏もやっと秋めいて来ました。青い空を安心して気持ちよく見上げられる

ようになってきました。2014年9月13日(土)六甲部部長多胡さんと大阪環状線の後部あたり



りで待ち合わせ、のんびりと和歌山YMCA 6階ホールに到着、お天気が良くなって来たせいかわ、出迎えの皆さまの表情が大変明るく生き生きしているように感じ大変嬉しく思いました。

12時開会、役員様方のご挨拶の表情も数々の苦しみを乗り越え、一つの“わ”になって明

るく助け合って行こうと言う優しさ、温かさそして落ち着きささえ感じ取れる事が出来ました。心配りの可愛いお弁当はみんなを喜ばせて下さいました。阪和部はもともと仲良しクラブといわれていましたが、これからももっと活動を展開していきたいという思いをお持ちのようです。又更に東北復興応援ツアー委員会、阪和部報などの企画委員会、阪和部EMC150推進チームの3つの委員会・チームを設置されたそうです。ますますお忙しくなられるでしょうが情報交換を密にして発展させて下さい。

第3部 メネット事業 国内プロジェクト
「希少難病問題」講演テーマ 「あなたの手は、誰かの翼」講師 小泉 二郎氏、
副代表理事 中岡 亜希氏

今まで聞いた事もないお話に、言葉がありませんでした。時間をかけて考えてみたいと思いました。色々勉強させていただきありがとうございました。まず考え、次に感じ、その後に行動する。(シスターのお言葉です)

1990年ごろ、ワイズの女性会長はほんのわずかでした。時々集まってお話をするうちに、名前を付けてみようかと言う事になり、「やよい会」と名づけました。今回阪和部会へ出席したいなと思ったのは、東 正美さんが実行委員長と知り是非お会いして今までのご奉仕への感謝と握手をしたかったからです。今日のおもてなし、最高でしたよ。最後に大笑いまでさせてくださって有難うございました。笑顔が大変美しかったと感じました。

三品ミチる

[京都部部会]

9月14日、ANAクラウンプラザホテル京都で開かれた第19回京都部会に宝塚クラブより石田メンと共に出席しました。私は2004年宝塚クラブに入会して以来10年間、周年行事、祝会等を除き、他クラブの通常例会、部会に出席

したことはありません。今回六甲部会計を担当する機会を与えられましたので、この機に出来るだけ他クラブの例会、部会に出席しようと考え、努めています。中でも京都部会は是非にと多くの方から奨められ楽しみにしていました。そして、それは期待に違わぬものでした。他部会に較べて人数が圧倒的に多いこと(450余名)、盛大なバナーセレモニーに登場する会長の方々が皆お若いこと。多いこと、若いことは大きな力です。今期、京都部の畑本会長がテーマに掲げられた「行雲流水」の思いが画像に表現され、大きな宴会室の壁面いっぱい、踊り、流れていました。時間をかけて練り上げられた企画だと思いましたが、全てをここに書くことはできません。



ここには六甲部とはまた少し違ったワイズメンズクラブがありました。この多様性こそ、ワイズ全体の力であり、宝であると思います。来年度は是非みなさんも参加して下さい。

堀江裕一

[中西部部会]

9月20日(土)中西部部会に宝塚クラブより6名が参加、合計156名の参加でした。第一部は式典で開会点鐘から始まりました。ワイズソング斉唱、開会祈祷に続き皆で賛美歌312「いつくしみ深き」を合唱。来賓のご挨拶ではワイズの役割を今一度考え、社会に訴えるような組織でありたいとのお話でした。また若手の



育成にも力を入れたいとのことでした。第二部では各事業主査及びクラブ会長活動報告が行われました。これからの将来を見据えて若者を育成してしっかり未来に繋げていくと言う考えが多くどのクラブもクラブを大きくしていくことを熱く語られました。第三部はソプラノ歌手岡田由美子さんの東日本大震災復興支援曲「祈り」、カッチーニの「アベ・マリア」、希望の歌が会場に響きました。最後はみんなで「花は咲く」を心を一つにして合唱しました。

第四部は淀川キリスト教病院にホスピスを開設された柏木哲夫教授による記念講演「命に寄りそう」です。

寄り添うケアとは横からのケアであること。下から支えるのではなく



横に寄り添うことなのです。そのためには人間力が求められます。人間力は聴く力、共感する力、受け入れる力、思いやる力、理解する力、耐える力、引き受ける力、寛容な力、存在する力、ユーモアの力です。

「励ます」は、外から動かそうとすることで自分あまり関与しなくてもいい。「寄り添う」とは関与することであり空間を共にすることであること。「励ます」とは「上から」という感じがある。また「支える」というのは「下から」という感じがある。一方、「寄り添う」は、「横から」なのです。相手の力を信じ寄り添っていけば、相手は前に進んでいくという信頼感に裏打ちされているのです。寄り添うことで感謝と安らぎが生まれることが理解できました。

良き生とは何でしょうか。感謝できる生、散らす生、ユーモアがあるという生の話が印象的でした。人間生きていく上でいろいろ辛いことや悲しいことがある。そんな時にこのユーモアの

力が大切な支えになるようです。ユーモアは人間だけに与えられた神的と言ってもいいほどの崇高な能力であると言えるようです。人間らしく生きていくためにもユーモアが必要のお話に心が温まりました。

第五部は懇親会、中華料理「錦城閣」も美味しく和やかに歓談。アピールタイムでは大阪YMCA行事報告、西日本区大会報告、アジア大会報告がなされ大いに盛り上がりました。YMCAの歌斉唱、全員での「ワイズ頑張ろう！」の声で閉会となりました。

鯖尻佳子

【びわこ部部会】

秋晴れの9月21日(日)、大津プリンスホテルにて、第19回びわこ部部会が開催され宝塚クラブより、多胡葉子六甲部長、堀江祐一六甲部会計、そして福田宏子が参加した。東日本区からは富士山部、南からは九州部よりの参加があり、総勢142名の出席であった。

第1部は、林 俊博びわこ部長の開会点鐘で始まり、第2部は、関西学院大学災害復興制度研究所、松田曜子准教授による記念講演「まるごと地域防災——地域のさまざまな力を防災に」と題して、1



995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災、今夏の広島、福知山、丹波地方における水害、山崩れ等の災害を通じて、さまざまなボランティア活動が紹介された。日本では1995年が「ボランティア元年」と呼ばれ、また『災害ボランティアの夜明け』とも言われた。

ボランティア方々の「役に立ちたい」「出来ることはしたい」という気持ちは尊いものの、

受け入れ側の例えば地方自治体の役割も重要であり、現実の現場の状況を的確に相互理解したりまた把握するのは非常に困難な場合も生じることがあるとの報告もされた。

いろいろなボランティア活動を紹介され、最後には「地域防災訓練のコツ」と題して、子ども、大人、役所、ボランティアと連携した講座を計画して、いやなことは考えずに楽しく学び、よき地域とのかかわりを得ると同時に、防災の知識をも得る一石二鳥を目指すのが賢明と訴えられた。い

つ何時生じるかわからない災害に対する心構え、防災知識の必要さを、全員納得した次第である。



第3部は、仰木小学校児童による、仰木太鼓が披露され、お腹に響く力強い太鼓の音が会場一杯に轟き渡った。その後、コース料理がふるまわれ、来年第18回大阪での西日本区大会、第26回京都でのアジア大会のアピールで幕を下ろした。湖面を吹く爽やかな風に送られて、それぞれ帰路についた。

福田 宏子

[西中国部部会]

9月27日(土)午後から岩国YMCAにおいて26クラブ、94名が参加して西中国部部会が行われた。

宝塚から杉谷会長、多胡、福田ひ、青柳、長尾、堀江、若林各メンが参加し、6月開催の西日本区大会の余韻がいまなお残る中、辻牧師をはじめ岩国クラブの面々との嬉しい再会の場となった。

第1部の部会では一連のセレモニー続き、広島女学院大学の二之方良枝さんからインド・チェンナイで開催された International Youth

Convocation の報告が行われ、Think Gloval,Act Local.という主題のもと、活発な討議を経て考えた若者の未来創造の Action Plan や、地元の小学校での交わりの様子が紹介された。

彼女の素晴らしい報告を通して、次代を担う若者が確実に育っていることを実感し、若者を IYC に送り出す意義を理解することができた。

第2部では、メネット事業主任の方針を受けて「希少難病から見た発展途上国・日本」と題する講演があり、社団法人 Universal Field の中岡亜季さんから、自らの遠位型ミオパチーという難病の闘病経験を踏まえ、超希少難病の新薬開発のための資金や制度・仕組みの現状を学ぶことができた。

メネット事業展開の方向性を考えさせられるものでもあった。

第3部は、近くのホテルに移動して懇親会が行われた。当初、米軍岩国基地内の将校クラブで行う予定だったが、昨今の国際情勢の緊迫化の



為か、基地内に入ることが難しくなり、急遽、会場変更。基地を抱える岩国市の一面を見た思いがする。会食は基地で提供されるビールやケーキが振るまわれ、また地酒にも魅せられ、ほろ酔い気分での会話がはずみ、いつものように賑やかな交流会となった。

若林 成孝

第13回西中国部会に出て

岩国クラブ 辻 建

今回、岩国市で行われた西中国部会では、宝塚クラブからの皆さまをお迎えする立場となり、7名の方々との再会を心待ちしておりました。日頃、孤立した大島で生活を送っている私にとっては親しい方がたのお顔に接し、声を交

わすことは何ものにも代え難い至福の時間でした。宝塚クラブとのDBC締結をなによりもエンジョイしているのは私かもしれません。帰米すぐの杉谷会長さん始め、西日本区の事務所長としてワイズ活動を底から支えておられる長尾亘さん、六甲部長として活躍の多胡葉子さん、その働きを支えておられる皆さんとの出会いは時の過ぎるのがもったいないように思われました。



西中国部のなかにいる者としての今回の部会の印象は、若林さんのご報告にあるような印象的なユースの報告や講演はあったものの、部を形成している7つのクラブの現状が報告されなかったことです。決して展望の明るくない地方のクラブの現状が見つめられ、それに対する工夫が話し合われたいのは、いかにも中途半端な感じが致しました。主催者は来訪者の「おもてなし」に気を奪われて、肝心の足もとの現状を見つめ合うポイントを軽視していないか、それが第1の印象でした。

それに比べて、来訪者たちの熱意は印象的でした。次回の西日本区大会の開催を引き受ける大阪中之島クラブの女性優位のアピール、2015年7月に京都を会場に行われるアジア地域大会(岡野アジア地域会長の働き)のアピールなど、すごい熱意が伝わってきました。

帰路、広島経由で帰られる長尾、若林、青柳美智子の皆さんと岩国駅に出て、列車を見送り、10分後反対方向の下関行きに乗って大島まで帰って参りました。楽しい出会いの時を有り難うございました。10月の例会には参加させていただきます。

[九州部]

第33回西日本区九州部部会(日時:2014年9月28日 場所:亀屋ホテル華椿、上天草)に参加して～杉谷和代

前日の西中国部部会参加者のうち4名、多胡、福田、堀江、杉谷は前夜熊本に移動、翌朝天草入りした。部会参加者144名、韓国合唱団30名を加えると総勢144名であった。第一部:16クラブによるバナーセレモニーは活気に溢れ、Y's ソングの高らかな響きは会場いっぱいになり九州部部会らしいパワーフルな幕開けであった。九州部の活躍に対して数々の賞



が与えられ、名実ともに九州の成長とパワーを感じ、同時に来年度の西日本区の開催アピール、アジア大会開催アピールなど西日本区の前年度の活躍ぶりはワクワクするような行事ラッシュである。誇りを持ってそれらの行事に参加することができればと実感したひと時であった。

第二部:ゲスト参加の韓国のコーラス団の演奏はY'sで繋がる交流の喜びを感じる大変素晴らしいものだった。続いて竜谷大学短期大学部教授窪田和子氏の基調講演。「地域文化と宗教～経済活動に見える近江商人のエートス～」は大変興味深い近江商人の地域と社会への貢献と宗教とのつながりは人間形成にとって大事であると論じられて、YMCAとY's menの地域社会への貢献と共通するものを感じた。今後YMCAのYouthが成長しY'sとして更に社会的に貢献度を高めるルートが太く強くなれば理想的だと感じた。

第三部:お楽しみ会!美味しい食事と九州部部会恒例(?)の劇。ちょんまげ姿の部長や司祭役がぴったりの西日本区理事など会場は笑いの渦。韓国合唱団も再度登場し更に盛り上がり

増したフィナーレとなった。

第4部：翌日エクスカッション。「イルカウォッチング」と「天草キリシタン歴訪」の2班に分かれた。快晴に恵まれ波も静かだったというイルカウォッチングもイルカに大歓迎を受けてEnjoy。宝塚4名はキリシタン歴訪グループ。素晴らしいガイドさん（浜崎会員）の豊富な経験と知識に満ち溢れた温かなガイドのお陰で本当に教育的なキリシタン歴訪の一日となった。予定より早く熊本に到着し、疲れているにもかかわらず、テンションは上がり、新大阪まで、おしゃべりと食べ続けで気が付いたら新大阪だった。充実の3泊4日を無事過ごすことができたことに心より感謝。



杉谷 和代

11月はユース例会です！！

私は高校時代に広島YMCAの国際交流プログラムでドイツに1ヶ月滞在したことがYMCAとの出会いでした。また岡山での大学時代には、大学の講師でもあった元岡山YMCA米良総主事のお声掛けをいただき、大学1年から岡山YMCAの野外活動・サッカー・キャンプなどさまざまな活動のボランティアリーダーとして参加してきました。そして、大阪の専門学校時代には講師の福田先生(宝塚クラブ)にお声掛けいただき宝塚ワイズメンズクラブの活動に参加しメンバーとして入会させていただき今日に至っております。

11月例会では、大学時代のボランティアリーダーの同期とともに参加したいと思います。そこでは、これまでの仕事やYMCA活動での

経験をもとにしたアイスブレイクやレクリエーションを予定しています。 桑田 勝弥

【今月のみ言葉】

「豚に真珠」や「働かざる者食うべからず」等、聖書の話に由来する言葉がいつのまにか日本語として定着した例は幾つもあります。「狭き門」もその一つですが、日本語に定着した「狭き門」は少なからず意味が変質してしまっているようです。

「狭き門」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、多数の希望者に対して受け皿が小さいため競争率が非常に高くなっている、一昔前の大学入試や司法試験のイメージではないでしょうか。しかし、聖書の「狭き門」はそういう意味ではありません。確かに、その門から入っていくことが難しいとされていることは間違いありません。それは決して人気が高いからという理由によるのではなく、むしろその逆で、人気がなく目立たないため、誰も入って行こうとしない状況がそこでは意味されています。その意味では、競争率が高いためではなく、むしろ、目指そうとする人が少ないことに起因する「狭き門」なのです。

事実、聖書は語っています。滅びに至る門は広く、道も広いので誰もがそこから入って行こうとするが、命に通じる門は狭く、道も細いので見出す人も少ない。ともすると私たちは、安易な道、楽な道へと流されてしまいがちですが、自分自身を成長させるために、時には困難な道を選び取ることも必要なのかもしれません。その意味でもこの言葉は、周囲に流されず、自分に示された道を信じて、しっかりと歩いていくようにと私たちを促しているのではないのでしょうか。

嶺重 淑

YMCA だより



1. ファミリーウェルネスセンター 献館式
挙行、去る8月30日(土)に、神戸YMCA
ファミリーウェルネスセンターの献館式
が行われ、総勢140名が出席されました。
遠くはシアトルYMCAから名誉副総主事
のトム・ホースレーさんが来神され、祝辞
を述べられると共に、5日ほどの滞在を通
して、旧交を温める機会となりました。ま
た、神戸市や兵庫県をはじめ、多くのゲスト
が来られ、新しい会館を見学していただき
ました。式では、小栗献牧師から「成長
する家族」と題してメッセージをいただき、
新しいセンターへの期待が述べられまし
た。施工くださった鹿島建設への感謝を表
す機会でもありましたが、鹿島建設からも
多くの方が出席され、共に完成の喜びを分
かち合いました。ファミリーウェルネスセ
ンターは9月1日(月)からオープンし、
初日には朝から約200人の方々来られ、
午後子どもたちが多く参加して、新しい
施設での活動を開始されました。今後の活
動に大いに期待したいと思います。
2. ファンドレイジングの試み、神戸新聞社と
のタイアップ開始このたび神戸新聞社と
タイアップし、神戸新聞の新規購読者の獲
得で、神戸YMCAの募金活動に寄附をい
ただくというファンドレイジングの試み
が始まりました。これは横浜YMCAが地
元紙である神奈川新聞社とタイアップし
ていて成果を挙げていることに倣ってほ
じめるものですが、是非、皆さんも協力い
ただいて神戸新聞を新たに購読する人を
紹介いただいたり、紹介はがきを配布し
たりする働きをお願いします。新規購読お
一人について3000円が神戸YMCAに寄附さ

れる仕組みになっています。今後も、この
ような様々な工夫によってファンドレイ
ジングを強化したいと願っています。ご協
力よろしくお願いいたします。

3. 今後の予定

1) 第17回神戸YMCAインターナショナル・チャリティーラン

日 時：11月3日(月・祝) 9:00
～15:00

場 所：しあわせの村(神戸市北区山田町)

2) 2014年度YMCAセミナー

「陣内大蔵 チャーチコンサート ～
いま、平和を求めて～」

日本においても、そして世界に目を向
けても、様々な状況下で、平和を保つ
ことが難しくなっています。そんな
中で、私たちは何を大切にするべきな
のか。どう考え、歩むべきなのか。今
年度のYMCAセミナーでは、ゲスト
にシンガーソングライターの陣内蔵
さんを迎え、歌とトークを交え、平和
を想うひと時を持ちたいと思います。
ぜひご参加ください。

日 時：11月17日(金) 19:00
～20:30(18:30開場)

場 所：日本基督教団 神戸栄光教会
チケット：(一般：1,000円

中高生：500円)

3) 第18回日本YMCA大会

日本のYMCA全体が「YMCAブランドの
再生」「オールジャパンYMCAの革新」に向
かって行動しようとしています。そのために、
より多くの関係者が秋の東山荘に結集し、語
り合う機会を持とうとしています。神戸から
もバスを出します。ご参加ください。

日 程：11月22日(土)～24日
(月・祝) 2泊3日

場 所：YMCA国際青少年センター
東山荘(御殿場市)

参加費：26,000円

(ユース15,000円)